

「JGreeX」使用のクレーン

本社工場に導入

グループ連携、環境に配慮

JFE商事甲南スチールセンター

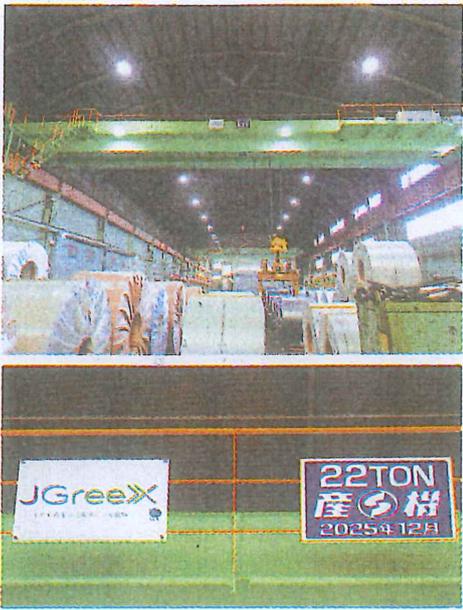
JFE商事グループの工場に「JGreeX」鋼材を使用したクレーンの導入は初となる。また、5月にあるJFE商事甲南スチールセンター（以下、J商甲南SC、本社・神戸市東灘区、社長・北島真治氏）は1月5日、劣化対策も兼ねて、本社工場内にJFEスチールのGXスチール「JGreeX」を使用した22トクレーン（ホイスト式）に更新した。J商グループ

関しては、定格荷重が22・0ト、スパンが28・0m、揚程が11・0m、巻上速度が毎分90・0m、走行速度が同40・0m、最大輪圧が22・5ト。安全装置は、隣接クレーン衝突防止、巻上げ2連操作禁止、トンクインターロック機能、安全モニター付き。

J商甲南SCの本社工場は3棟（7、8、9ヤード）に分かれており、1月に更新したクレーンは産機社製で、9ヤード東の母材入庫ヤードに設置した。クレーンの能力に

今年5月のゴールデンウィーク期間中に、7ヤード東の母材入庫ヤードのクレーン

の機能が付与されている。J商甲南SCは、JFEグループ全体で推進するGXスチール「JGreeX」の普及・認知度向上を図る一翼を担っていく方針。また、クレーン母材の厚板の溶断についてはJFE鋼材の大阪事業所が手掛けており、グループ連携にもつなげている。北島社長は「JGreeX」の認知度・浸透に寄与しながら、当社自身でも環境に配慮した設備を今後も導入していきたい」と話す。



④ 9ヤード東の母材入庫ヤードに設置した「JGreeX」の看板も

（産機社製）を更新導入する予定。クレーン能力は定格荷重25・0ト、最大輪圧23・0トのほかに1月に更新したクレーンと同等のスペックで、安全装置も同様